

令和4年(2022年)2月18日

れきみん

# 資料館だより

No. III-35

相生市立歴史民俗資料館

## 〈資料紹介24〉陸・狐塚古墳の謎(その2) -埋葬施設の検討と被葬者像-

〈埋葬施設の検討〉 前号で紹介した報告文と平井 漢が撮影した写真から、狐塚古墳の埋葬施設が横穴式石室であったことは間違いないでしょう。



写真1 破壊が進む横穴式石室① (中央は奥壁カ) 写真2 破壊が進む横穴式石室② (羨道右側壁カ)

いずれも1955年に平井 漢撮影 当資料館蔵

『相生市史』第1巻・同第5巻の記述(西谷 1984・1989)に従うと、石室の特徴は以下の5点にまとめることができます。

- ① 西を向いていた(西に開口カ)。
- ② 奥行5m、幅2.7mの規模(玄室の規模か石室全体の規模かは不明)を有していた。
- ③ 床は粘土で固めて砂利を敷いていた。
- ④ 壁面に朱が施されていた。

- ⑤ 天井石を転用したとされる神戸製鋼所播磨造船所殉職者慰霊碑の碑石(写真3)の計測値は、縦3.1m(露出部分)、横2.8m、厚さ0.25m(著しく薄いのは碑のために加工カ)を測る。

また、平井が撮影した破壊進行中の写真から、次の2点を読み取ることができそうです。

- ⑥ 奥壁とみられる基底にはやや大きめの石が据えられている(写真1)。



- ⑦ 玄門の袖部には立柱石りつちゆうせきを用いているようである(写真2)。

②で示した数値が玄室の規模とした場合、西播磨地域の古式の横穴式石室としては見野長塚古墳ながつか(姫路市四郷町)の後円部石室が近い数値を示し、③の床面の構造や④の朱の使用に類似点を見出すことができます。見野長塚古墳は6世紀前葉に築造された前方後円墳みの(墳長

34m) で、前方部にも横穴式石室を有しています。発掘調査時には両石室とも破壊された状態で検出されましたが、後円部石室は玄室・玄門の基底石と床面がかろうじて残っていました。奥壁部は失われていましたが、右片袖式の畿内系石室と考えられ、玄室残存長約4.8m、幅約2.6m、羨道幅約1.2mを測ります。また、床面はほぼ前面に小さな川原石が敷かれ、遺存していた歯には朱が付着していました(秋枝1994・大谷2010)。

しかし、全体像が明らかな他の畿内系石室と比較すると、狐塚古墳石室は異質です。⑤の長大な天井石を使用していること、⑥の奥壁とみられる基底にやや大きめの石を据えていること、⑦の玄門の袖部とみられる部位に立柱石を用いていることなど、いずれも畿内系石室の変遷過程においては6世紀後半の特徴を示し(中濱2001)、遺物から推定される時期(6世紀初頭)と齟齬をきたします。

そこで考えられるのは、狐塚古墳石室が九州系であったか、畿内系石室に九州系石室の構造要素を採り入れた融合的な石室であった可能性です<sup>(1)</sup>。もしそうであるなら、また違った歴史的意義が見出されることでしょう。

〈被葬者像〉豊富な武器・武具・馬具を伴うことから、被葬者は武人的性格を有していたことが想定され、雄略～継体朝期(5世紀後半～6世紀前葉)にヤマト王権の軍事行動(朝鮮出兵等)に参加、もしくは航行に協力した人物ではないかと考えられています(宇野2011)。

狐塚古墳は播磨灘から入り込んだ相生湾の最奥部に位置し、築造当時は汀<sup>みぎわ</sup>近くに立地していたものと思われます<sup>(2)</sup>。また、重要な陸路が東西に走り、赤穂方面との分岐点にもなっています。まさに水陸交通の結節点に築かれた古墳といえます。

加えて、金銅製の細帯式冠・鈴、砥石などの渡来系遺物も注目され、渡来系集団との浅からぬ関係が想定できそうです。被葬者はヤマト王権の主導の下、瀬戸内海を介して九州や朝鮮半島を往来し、彼の地の集団と直接交渉をもった人物といえるかも知れません。

#### 〈註〉

- 1 中国地方や近畿地方において、横穴式石室導入期に九州系石室が単発的に築かれることがある。また、一部の部位に九州系石室の構造要素が認められる畿内系石室も存在する。
- 2 元禄13年(1700)に作成された絵図「播州赤穂郡矢野之庄別名那波方之画圖」<sup>やののしょうべつみょうなばかたのがず</sup>によれば、現在の境橋付近(垣内町南端)まで海であったことがわかる(中濱2018)。古墳時代においては、さらに海が入り込んでいたものと推測される。

#### 〈参考文献〉前号記載の文献は省略

秋枝 芳 1996 「見野長塚古墳」『TSUBOHORI 平成6年度(1994) 姫路市埋蔵文化財調査略報』(姫路市教育委員会)

大谷輝彦 2010 「見野長塚古墳」『姫路市史』第7巻下 資料編 考古(姫路市)

中濱久喜 2002 「播磨における横穴式石室の構造と変遷」『横穴式石室からみた播磨』集会の記録(第2回播磨考古学研究集会実行委員会)

中濱久喜 2018 「播州赤穂郡矢野之庄別名那波方之画圖-江戸時代の相生市城南部の景観-」『れきみん 資料館だより』(相生市立歴史民俗資料館)

\* 平井常満氏から故・平井 漢氏撮影の狐塚古墳関係写真を寄贈していただきました。また、狐塚古墳の遺物について山中良平氏よりご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。

(中濱久喜)